

統計でみる



# 九州林業の概要

鉄肥（おび）杉（宮崎県）



令和5年11月  
九州農政局統計部



農林水産省

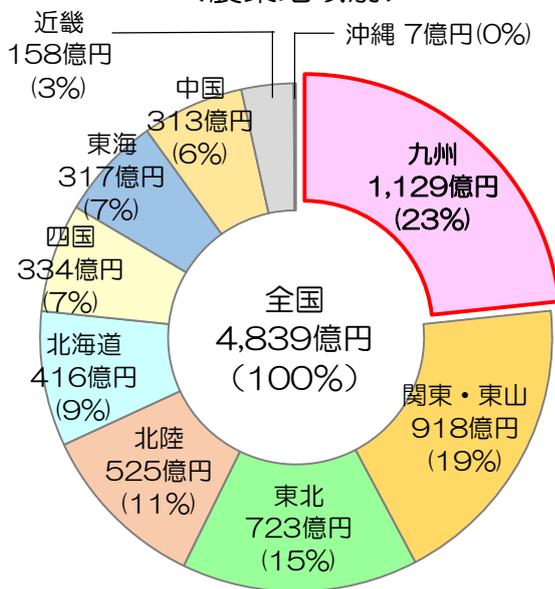
# 九州の林業産出額は全国の2割。



- 令和3年の九州の林業産出額は1,129億円で、全国の2割を占めています。
- 県別にみると、宮崎県が372億円（全国4位）で最も多く、次いで大分県が227億円（同5位）、熊本県が190億円（同7位）、福岡県が136億円（同10位）となっており、上位10位までに九州の4県が入っています。
- また、九州の林業産出額の推移を見ると、平成14年までは減少傾向で推移していましたが、その後は横ばいで推移し、平成25年からは増加に転じ、全国に占める割合が徐々に高くなっています。

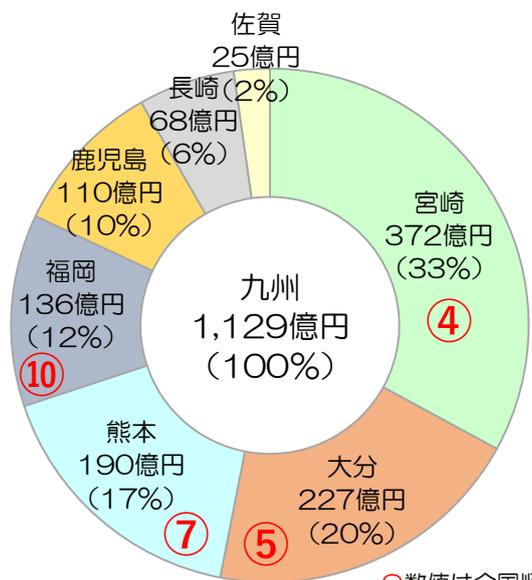
◇林業産出額（令和3年）

<農業地域別>



◇林業産出額（令和3年）

<九州県別>

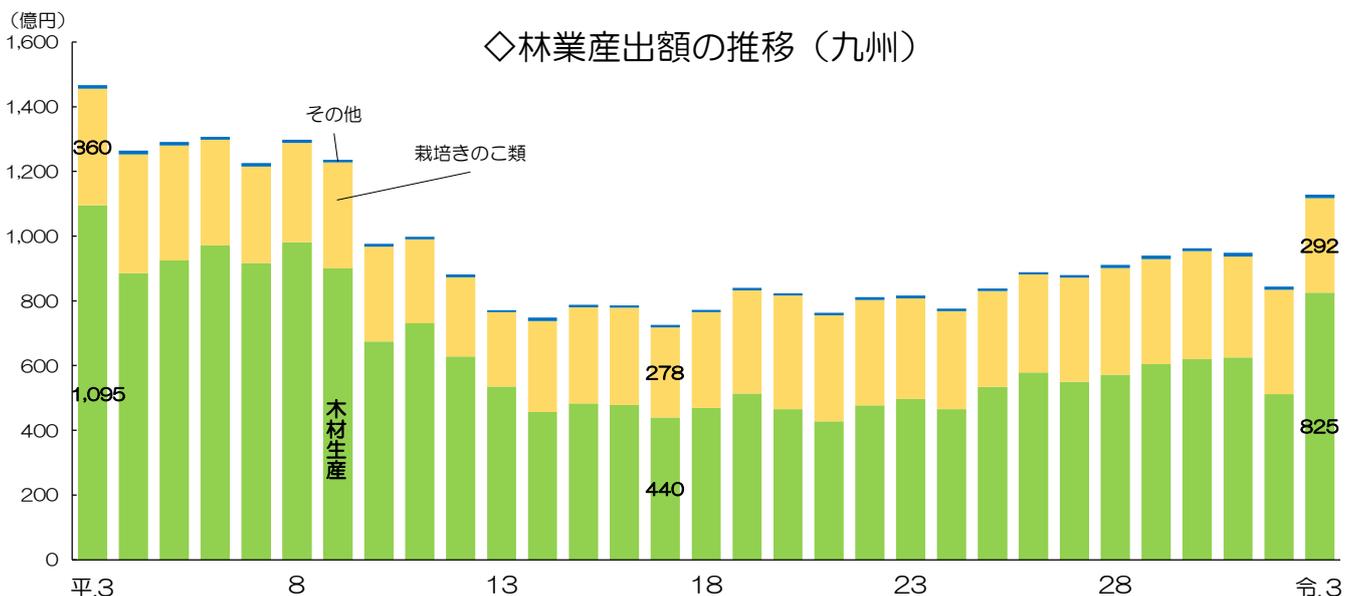


○数値は全国順位です。

注：数値及び割合については表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合があります。（以下同じ）

資料：農林水産省統計部「林業産出額」（以下同じ）

◇林業産出額の推移（九州）



注1：林業産出額とは、1月～12月における都道府県別の品目別生産量に価格を乗じて推計したものです。

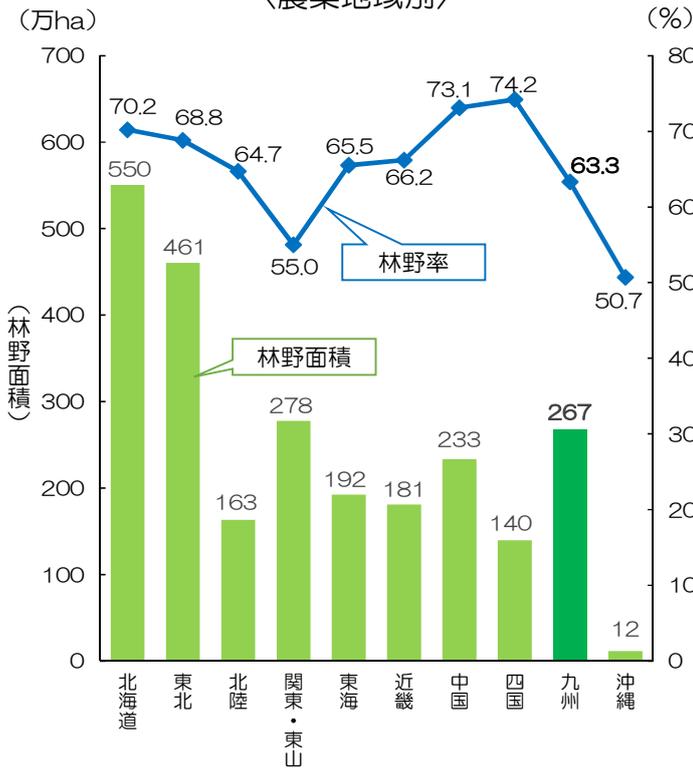
注2：この産出額には、パルプ用素材、輸出丸太及び燃料用チップ、まき、木ろう及び生うるしの産出額は含まれていません。

# ● 宮崎県と大分県は林野率が7割。

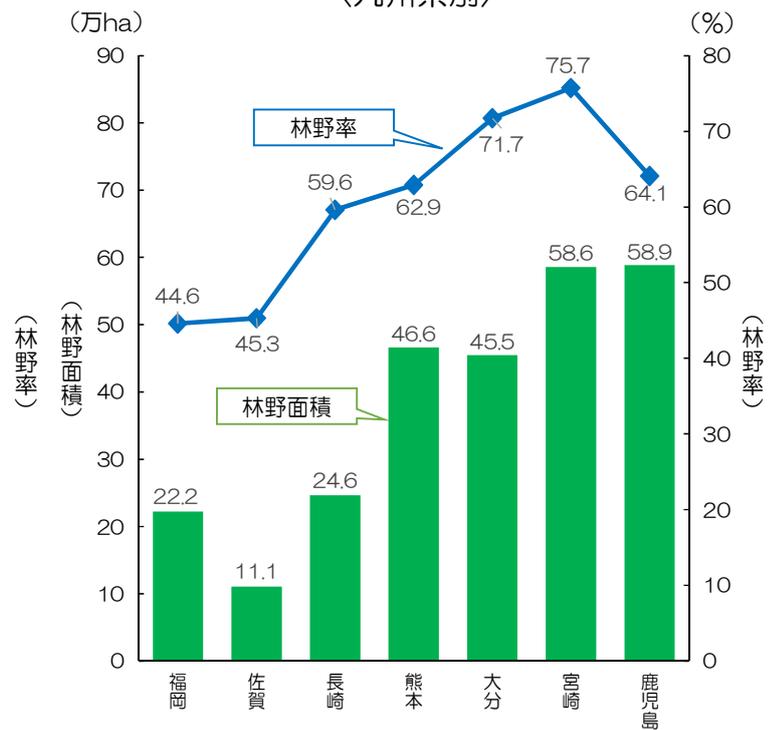


- 九州の林野面積は267万haで全国の11%を占めています。また、総土地面積に対する林野率は63%となっています。
- 林野面積を県別にみると鹿児島県が58.9万haで最も広く、次いで宮崎県が58.6万ha、熊本県が46.6万ha、大分県が45.5万haの順となっています。

◇林野面積及び林野率（令和2年）  
〈農業地域別〉



◇林野面積及び林野率（令和2年）  
〈九州県別〉



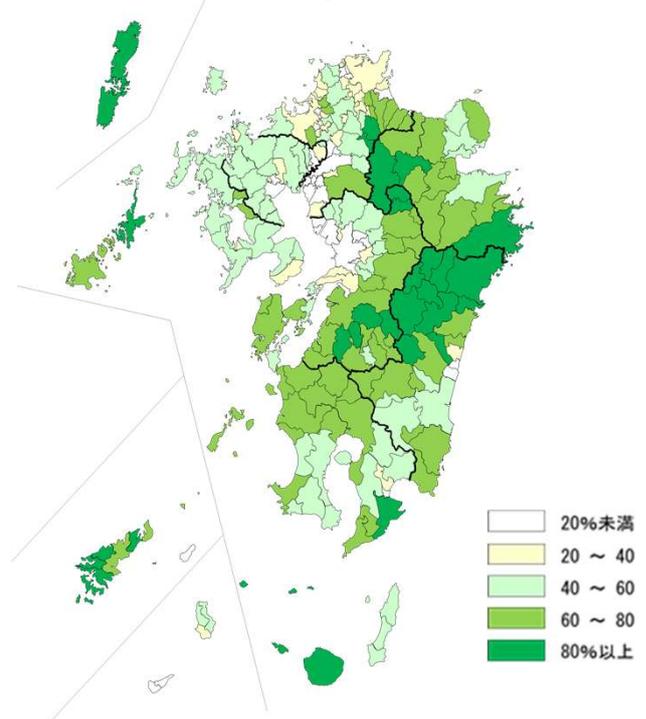
資料：農林水産省統計部 『2020年農林業センサス』（以下同じ）

注：林野率は、総土地面積に占める林野面積の割合をいい、農業地域別は、総土地面積から北方四島及び竹島を除いて計算しました。

◇都道府県別林野率（令和2年）

全国順位	都道府県名	林野率 (%)
1	高知	83.7
2	岐阜	79.2
3	島根	78.7
4	山梨	78.2
5	奈良	76.9
6	和歌山	76.2
7	長野	75.9
8	宮崎	75.7
9	徳島	75.5
10	岩手	75.4
16	大分	71.7
28	鹿児島	64.1
31	熊本	62.9
32	長崎	59.6
39	佐賀	45.3
40	福岡	44.6

◇市町村別林野率（令和2年）

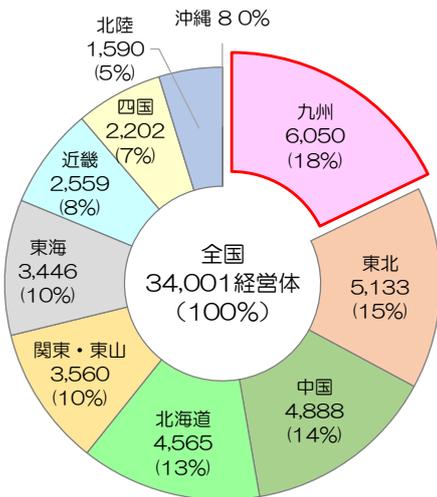


# ● 林業経営体は5年前に比べ57%減少。

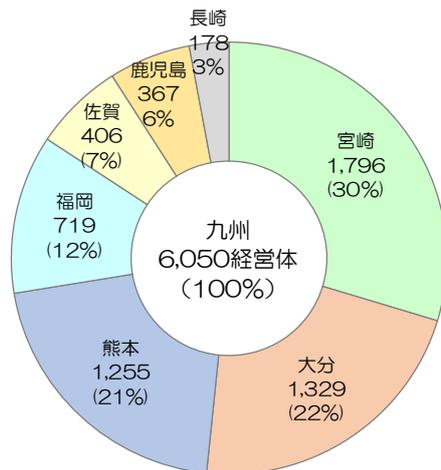


- 九州の林業経営体数（令和2年）は、6,050経営体で全国の18%を占めていますが、5年前の平成27年に比べ7,889経営体（57%）減少しています。
- 県別に見ると宮崎県が1,796経営体で最も多く、次いで大分県が1,329経営体、熊本県が1,255経営体の順となっています。

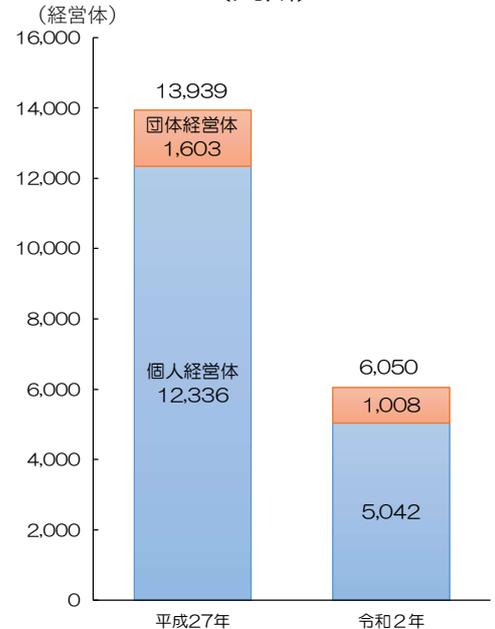
◇林業経営体（令和2年）  
＜農業地域別＞



◇林業経営体（令和2年）  
＜九州県別＞



◇林業経営体の動き  
（九州）



資料：農林水産省統計部 『2020年農林業センサス』（以下同じ）

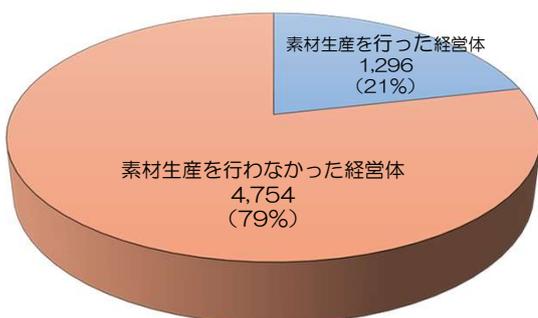
注：林業経営体とは、林産物の生産を行うか又は委託を受けて林業作業を行い、生産又は作業に係る面積が、次の規定のいずれかに該当する事業を行う者をいいます。

- （1）保有山林面積が3ha以上の規模の林業
- （2）委託を受けて行う育林若しくは素材生産又は立木を購入して行う素材生産の事業

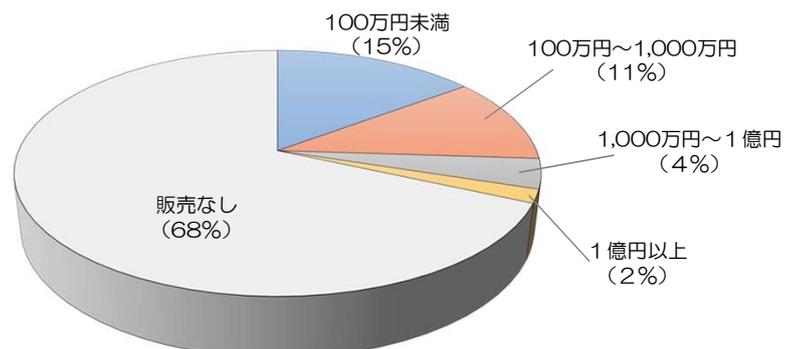
注：個人経営体とは、個人（世帯）で事業を行う経営体で、法人化して事業を行う経営体は含みません。団体経営体とは、個人経営体以外の経営体をいいます。

- 林業経営体のうち、素材生産を行った経営体の割合は21%となっています。
- 林産物販売金額規模別経営体数の割合は、販売が無かった経営体が68%となっています。販売のあった経営体では100万円未満が15%と最も多く、1億円以上の経営体は2%となっています。

◇素材生産を行った林業経営体  
（令和2年：九州）



◇林産物販売金額規模別林業経営体数割合  
（令和2年：九州）



注：素材とは丸太のことをさし、原木ともいいます。

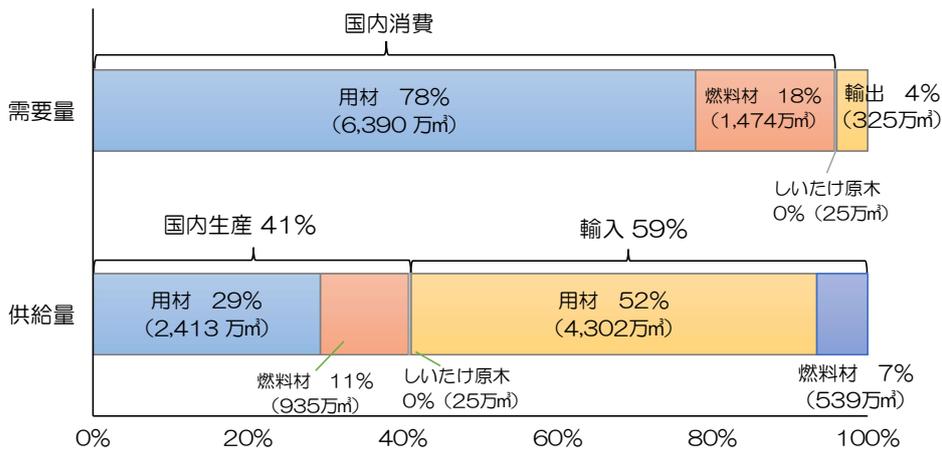
注：林産物とは、保有山林から生産・採取されたものです（立木を購入して生産した素材、栽培きのこ類、林業用苗木などを除く）。

# ● 木材供給量の4割が国内生産、自給率は上昇傾向。

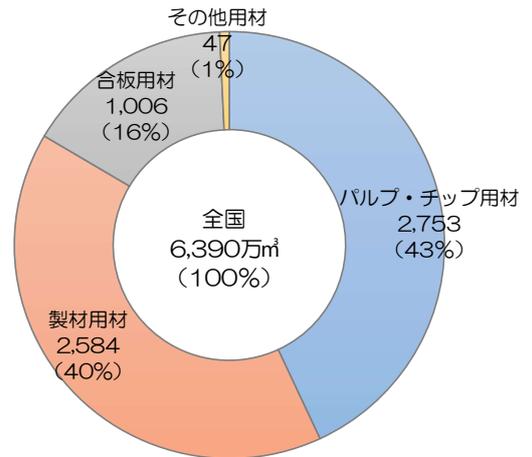


- 木材需要量の国内消費のうち用材が78%を占め、燃料材が18%となっています。また、輸出は4%となっています。
- 木材供給量は国内生産が41%、輸入が59%となっています。
- 用材を用途別に見るとパルプ・チップ用材と製材用材で8割を占めています。

◇木材需要量・供給量（令和3年）  
＜全国＞



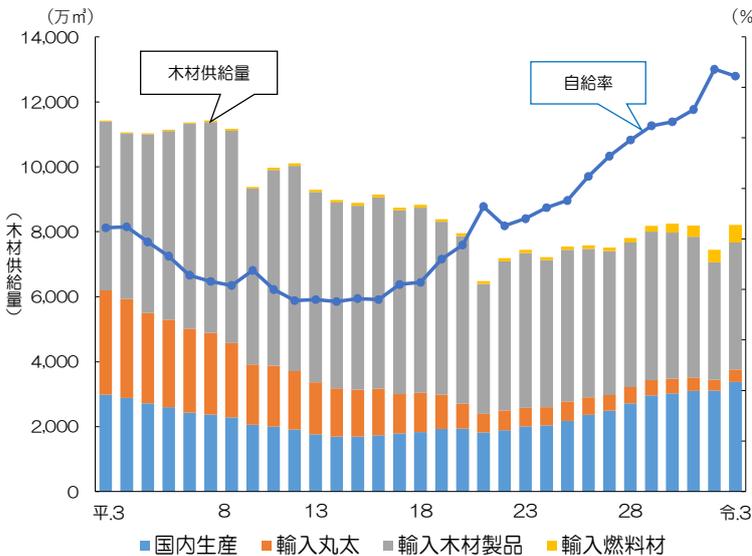
◇用途別の用材需要量（令和3年）  
＜全国＞



資料：農林水産省統計部「木材需給表」

- 国内生産の木材供給量は平成21年まで減少傾向でしたが、平成22年から増加に転じ、令和3年には3,372万m³となっています。自給率は上昇傾向で、令和3年は41.1%となっています。
- 製材用素材価格は、木材需要の低迷や輸入材との競合から低下傾向でしたが、令和3年は輸入材の不足により国産材の需要が高まり価格は上昇しました。

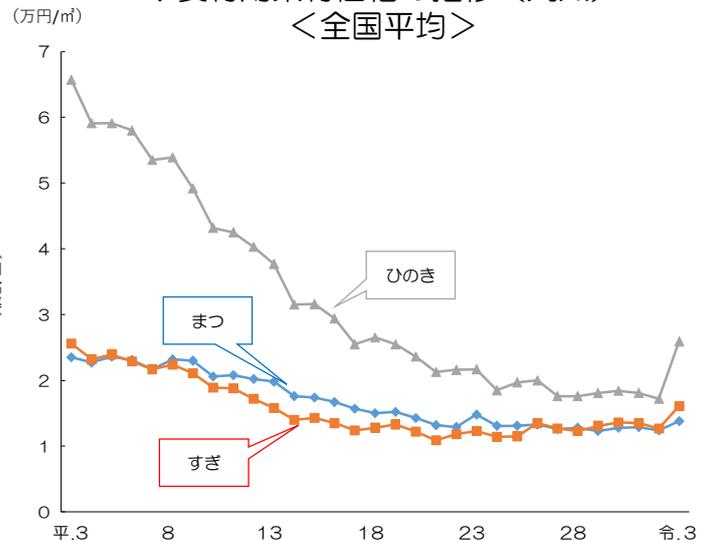
◇木材供給量と自給率の推移（全国）



資料：農林水産省統計部「木材需給表」

注：輸入木材製品は、製材品、木材パルプ、木材チップ合板等です。

◇製材用素材価格の推移（丸太）  
＜全国平均＞



資料：農林水産省統計部「木材需給報告書」

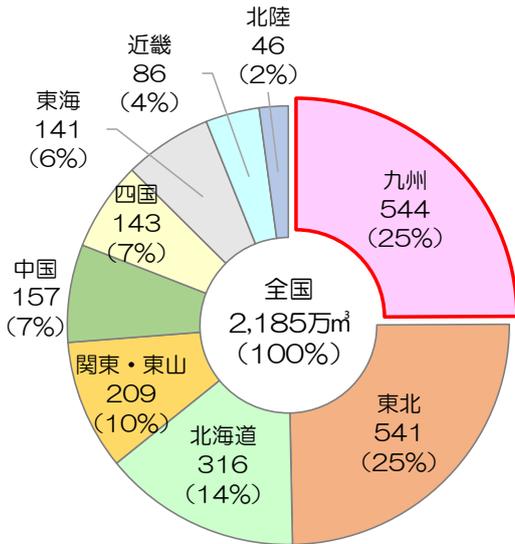
注：価格は各樹種の「中丸太」です。

# ●九州の素材生産量は全国の25%を占め、増加傾向で推移。

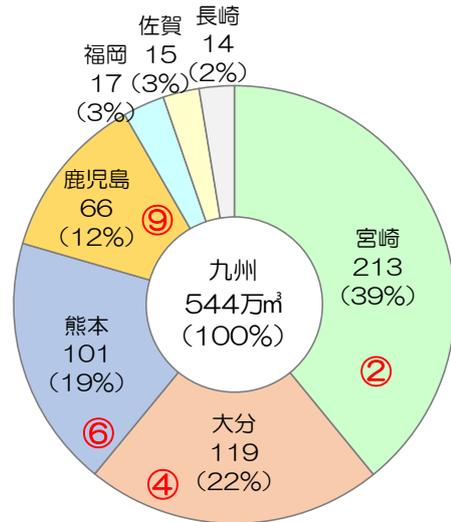


- 令和3年の九州の素材生産量は544万㎡で、全国の25%を占めています。
- 県別にみると、宮崎県が213万㎡（全国2位）、大分県が119万㎡（同4位）、熊本県が101万㎡（同6位）となっており、この3県で九州全体の約8割を占めています。

◇素材生産量（令和3年）  
＜農業地域別＞



◇素材生産量（令和3年）  
＜九州県別＞

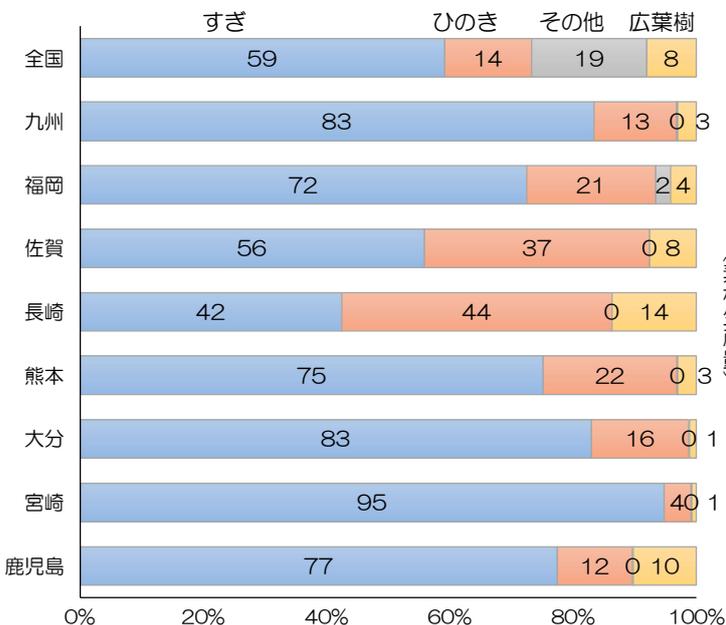


○数値は全国順位です。

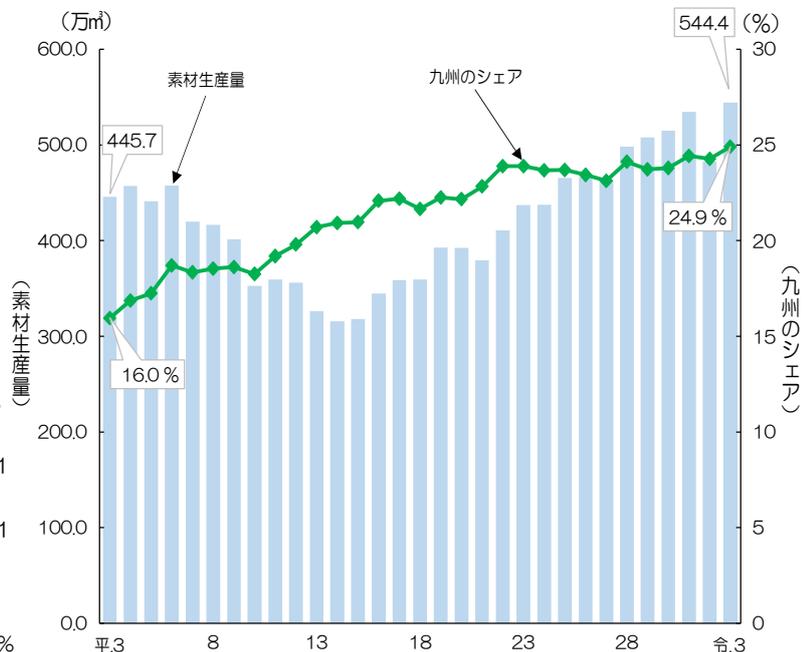
資料：農林水産省統計部「木材需給報告書」（以下同じ）

- 九州の素材生産量を樹種別にみると、全国に比べすぎの割合が高く83%となっています。
- 九州の素材生産量は、平成14年まで減少傾向で推移していましたが、その後、増加傾向に転じ、全国に占める割合も徐々に高くなっています。

◇素材生産量の樹種別構成割合  
（令和3年）



◇素材生産量（九州）と九州シェアの推移

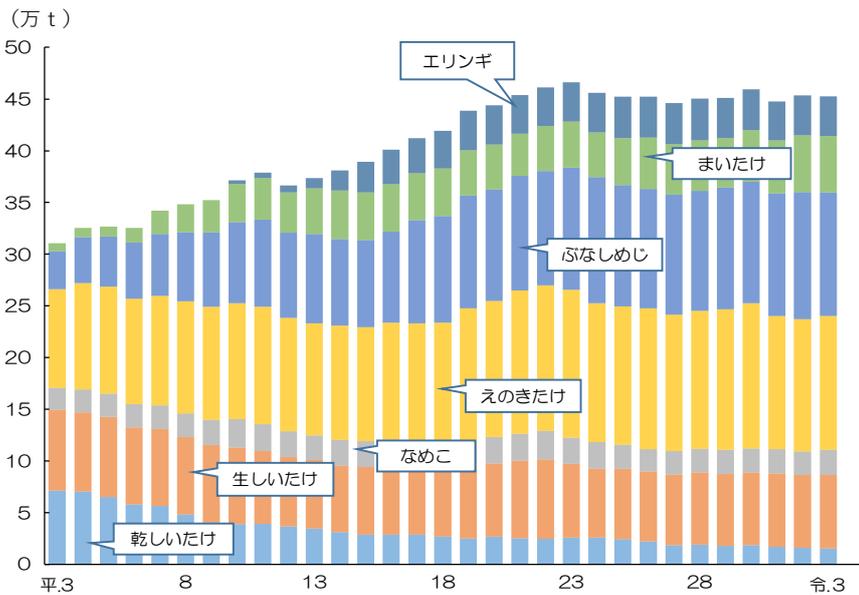


# ● 乾しいたけの生産量は、九州が上位を独占。



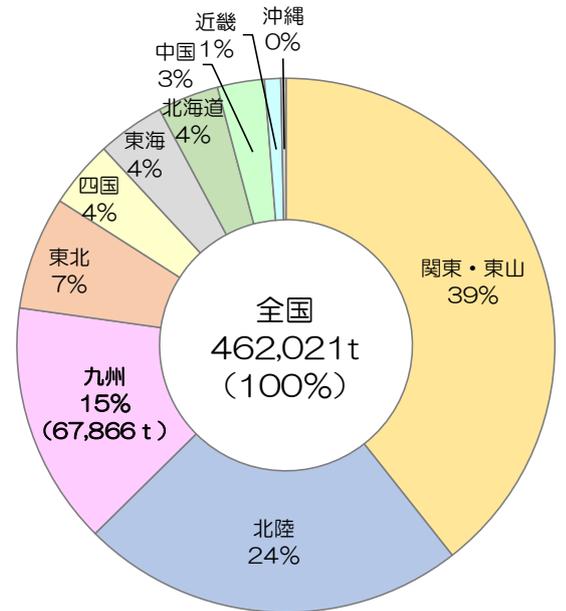
- きのこ類の生産は、平成23年まで増加してきましたが、以降は横ばいで推移しています。
- 品目別では、えのきたけ、ぶなしめじの生産量が増加しています。
- 令和3年の九州の生産量は67,866 tで、全国の15%を占めています。
- 都道府県別の全国順位は、きのこ類総計で福岡県（3位）、宮崎県（5位）、大分県（6位）、長崎県（8位）などとなっています。特に乾しいたけは、3位までを九州が独占しています。

◇きのこ類の国内生産量の推移



資料：農林水産省統計部「特用林産物生産統計調査」（以下同じ）

◇きのこ類の国内生産量（令和3年）  
＜農業地域別＞



◇きのこ類生産量の全国順位とシェア（令和3年）

きのこ類総計				乾しいたけ（生換算値）				生しいたけ			
順位	都道府県名	生産量（t）	全国シェア	順位	都道府県名	生産量（t）	全国シェア	順位	都道府県名	生産量（t）	全国シェア
1	長野	158,950	34%	1	大分	5,877	38%	1	徳島	7,048	10%
2	新潟	99,718	22%	2	宮崎	2,716	18%	2	北海道	5,632	8%
3	福岡	27,646	6%	3	熊本	1,582	10%	3	岩手	4,660	7%
4	北海道	17,091	4%	4	愛媛	888	6%	4	群馬	4,103	6%
5	宮崎	11,514	2%	5	岩手	689	4%	5	秋田	3,900	5%
6	大分	11,323	2%	6	鹿児島	463	3%	6	千葉	3,476	5%
7	静岡	10,463	2%	7	静岡	449	3%	7	福島	3,371	5%
8	長崎	9,871	2%	8	長崎	347	2%	8	栃木	3,152	4%
9	山形	8,360	2%	9	栃木	246	2%	9	長野	3,017	4%
10	群馬	7,213	2%	10	新潟	169	1%	10	宮崎	2,910	4%

まいたけ			ぶなしめじ			えのきたけ			エリンギ		
順位	都道府県名	生産量（t）	順位	都道府県名	生産量（t）	順位	都道府県名	生産量（t）	順位	都道府県名	生産量（t）
1	新潟	36,680	1	長野	51,122	1	長野	79,018	1	長野	16,434
2	静岡	5,102	2	新潟	22,045	2	新潟	19,386	2	新潟	12,007
3	福岡	3,768									

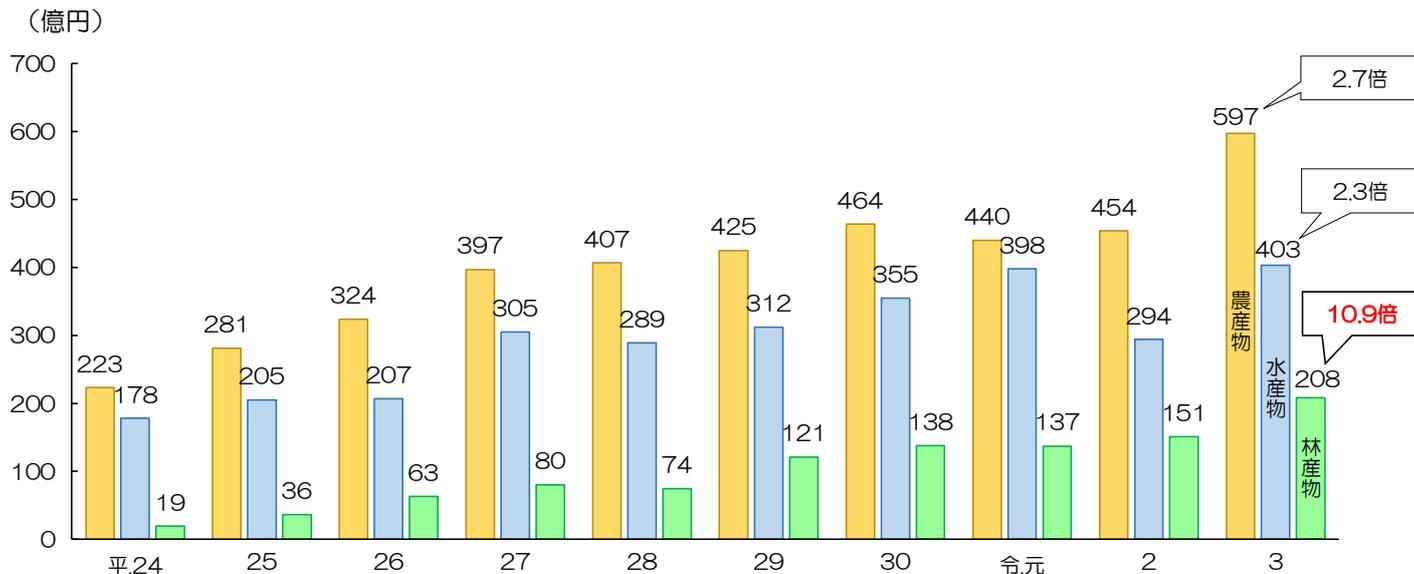
注：ぶなしめじ、えのきたけ及びエリンギについては、秘匿措置の県があるため3位以降は確定できません。

# 九州から海外への丸太等林産物の輸出は増加。



●令和3年の九州の林産物の輸出額は208億円で、全国（570億円）の36%を占めており、また、近年は農産物や水産物の伸びを上回って増加し、平成24年の10.9倍となっています。

◇九州の港等からの農林水産物・食品の輸出額



資料：九州農政局「見たい！知りたい！九州農業」より

注：グラフ中の吹き出しの数値は、平成24年の輸出額に対する令和3年の伸び率です。

◇九州の主な林産物の輸出品目と輸出先

【長崎県】  
〈木材〉  
→ 中国・韓国 令和3年度 2.9億円

【熊本県】  
〈木材〉  
→ 中国・韓国・アメリカ等 令和3年度 31.5億円

【大分県】  
〈木材（丸太・製材）〉  
→ 中国・台湾・フィリピン等 令和3年度 21.0億円

【宮崎県】  
〈木材〉  
→ 中国、台湾等 令和3年度 85.7億円

【鹿児島県】  
〈木材〉  
→ 中国、台湾等 令和3年度 33.3億円

資料：九州農政局「見たい！知りたい！九州農業」より

## ◆輸出取組事例

『スギ、ヒノキ丸太を中国、韓国へ』  
木材輸出戦略協議会（事務局：曾於地区森林組合）

【主な品目】スギ、ヒノキ

【主な輸出先】中国、韓国

【輸出取組の概要】

◆平成23年4月に木材輸出戦略協議会を設立し、同年7月から輸出を開始しており、現在は、鹿児島県・宮崎県の近隣4森林組合で活動。

◆4森林組合が連携することにより、国内需要の少ない大径材や低質材を安定的に供給することが可能となるとともに、九州の地理的利便性を生かしながら、中国を中心に販路を拡大。

【輸出実績】（平成23年から輸出開始）

	スギ輸出量 (m)	ヒノキ輸出量 (m)
令和2年度	65,619	0
令和元年度	53,640	1,114
平成30年度	59,979	1,807

資料：九州農政局「農林水産物・食品の輸出取組事例」より

# 九州林業に関する主要統計指標

項目	単位	年次	全国	九州	九州のシェア等	摘要（資料名）
林野面積	万ha	R2	2,477	267	10.8	「2020年農林業センサス」
林野率	%	R2	66.4	63.3	注1 △ 3.1	〃
林業経営体数	経営体	R2	34,001	6,050	17.8	〃
うち法人経営体数	経営体	R2	4,093	632	15.4	〃
林業従事者数	人	R2	43,710	8,540	19.5	「令和2年国勢調査」
うち35歳未満	人	R2	7,220	1,530	21.2	〃
35歳未満の割合	%	R2	16.5	17.9	注1 1.4	〃
素材生産量	千m <sup>3</sup>	R3	21,847	5,444	24.9	「令和3年木材需給報告書」
うち製材用	千m <sup>3</sup>	R3	12,861	4,420	34.4	〃
うち合板等用	千m <sup>3</sup>	R3	4,661	649	13.9	〃
うち木材チップ用	千m <sup>3</sup>	R3	4,325	375	8.7	〃
製材工場数	工場	R3	3,948	634	16.1	〃
合単板工場数	工場	R3	158	...	...	〃
木材チップ工場数	工場	R3	1,082	155	14.3	〃
しいたけ生産者数	戸	R3	14,906	7,579	50.8	「令和3年特用林産物生産統計調査」
乾しいたけ生産量	t	R3	2,216	1,599	72.1	〃
乾しいたけ生産量（生換算値）	t	R3	15,514	11,190	72.1	〃
生しいたけ生産量	t	R3	71,058	9,811	13.8	〃
林業産出額 <sup>注2</sup>	千万円	R3	48,394	11,287	23.3	「令和3年林業産出額」
うち木材生産	千万円	R3	26,655	8,251	31.0	〃
うち栽培きのこ類	千万円	R3	20,916	2,924	14.0	〃

項目	単位	年次	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島
林野面積	万ha	R2	22	11	25	47	45	59	59
林野率	%	R2	44.6	45.3	59.6	62.9	71.7	75.7	64.1
林業経営体数	経営体	R2	719	406	178	1,255	1,329	1,796	367
うち法人経営体数	経営体	R2	45	58	46	110	93	175	105
林業従事者数	人	R2	870	300	520	1,690	1,170	2,600	1,390
うち35歳未満	人	R2	100	70	70	380	240	390	280
35歳未満の割合	%	R2	11.5	23.3	13.5	22.5	20.5	15.0	20.1
素材生産量	千m <sup>3</sup>	R3	167	145	139	1,013	1,185	2,131	664
うち製材用	千m <sup>3</sup>	R3	124	124	77	811	948	1,919	417
うち合板等用	千m <sup>3</sup>	R3	7	1	12	123	210	164	132
うち木材チップ用	千m <sup>3</sup>	R3	36	20	50	79	27	48	115
製材工場数	工場	R3	95	45	44	126	114	120	90
合単板工場数	工場	R3	...	...	...	...	...	...	...
木材チップ工場数	工場	R3	16	6	4	33	35	34	27
しいたけ生産者数	戸	R3	639	114	316	684	3,382	1,324	1,120
乾しいたけ生産量	t	R3	22	8	50	226	840	388	66
乾しいたけ生産量（生換算値）	t	R3	152	54	347	1,582	5,877	2,716	463
生しいたけ生産量	t	R3	738	72	2,856	635	1,818	2,910	782
林業産出額	千万円	R3	1,362	253	680	1,902	2,268	3,722	1,100
うち木材生産	千万円	R3	239	237	195	1,684	1,709	3,217	970
うち栽培きのこ類	千万円	R3	1,109	10	471	201	541	477	115

※注1：全国と九州の差（九州－全国）を表示しています。

※注2：「林業産出額」の全国値及び九州値は、都道府県別の合計値です。



九州農政局統計部 統計企画課

電話：096-211-9111（内線：4922, 4923）

九州農政局ホームページアドレス <https://www.maff.go.jp/kyusyu/>